

壱岐島海岸漂着物クリーンアップ作戦 「ボランツーリズム in 壱岐」

1. 自治体名 長崎県
2. 発表者名 神山果歩 (KAMIYAMA Kaho) (壱岐市立勝本中学校 2年)
紐本拓真 (HIMOMOTO Takuma) (長崎県立壱岐商業高等学校 2年)
神山 勇 (KAMIYAMA Yu) (長崎県立壱岐高等学校 2年)
紐本優花 (HIMOMOTO Yuuka) (壱岐市立勝本中学校 1年)
3. 活動名 壱岐島海岸漂着物クリーンアップ作戦「ボランツーリズム in 壱岐」
(ボランティア団体「壱岐島活性化集団チーム防人」主催)
4. 活動期間 年間 2 回実施される内、平成 22 年 4 月と 24 年 4 月の 2 回参加
5. 活動場所 島内全海岸
6. 活動参加人数 第 1 回目 60 名、第 2 回目 120 名
7. 活動を始めた経緯
家族にボランティアガイドをしている人がいて、島の海岸漂着物の現場を見た観光客の驚きの声を聞いてから参加することにした。

8. 発表要旨

私たちの住んでいる長崎県の壱岐という島における海岸漂着物の取り組みについて発表

(1) 壱岐の概要

島の面積は 133 平方キロメートル 周囲は 191 キロ、
人口は 29,500 人の小さな島です。主な産業は漁業、農業、観光です。

(2) 壱岐の海岸漂着物の様子

白いのは発泡スチロール
です。
砕けて雪のようになります。
ゴミで海岸が埋め尽くされて
います。全部、私たち人
間捨てた物です。



(3) 壱岐の島 海岸漂着物クリーンアップ作戦への参加

①2010年4月3日に「第1回ボランツーリズム in 壱岐」に参加しました。

『ボランツーリズム』とはボランティアとツーリズムを組み合わせた造語です。

ゴミ拾いのボランティア活動をして、次の日に、観光を楽しむ、体験型観光のことで
す。この時の参加者は60名 回収ゴミの量はトラック6台分でした。



②今年4月28日に『第2回ボランティアリズム in 壱岐』に参加しました。

1回目より多くの人に参加し、沢山のゴミを集めることが出来ました。

大人だけでなく子供達も大勢参加しています。でも、ゴミの多さに驚き、立ち尽くしています。大型冷蔵庫、発泡スチロール、漁具など数多くのゴミが漂着しています。回収したゴミを分別して焼却施設へ運びました。



(4) 今後の取り組み

このままではゴミは次々と押し寄せてきます。まだ取り組みは始まったばかりです。このかけがえのない、美しい自然を後世に残し、海の環境保全と人々の意識改革のため、私たちに何が出来るか、それをみんなで考えていきたいと思います。

拾う人は捨てない、この合い言葉をモットーにゴミゼロアースを目指して頑張りますよう。

将来、私が大人になり子供を産み、孫、その孫達にもこの綺麗な壱岐の島の海を残していきたいと思います。

素足で歩ける浜辺を目指して。これからもこのような活動に参加していきます。